

母屋（番屋）



ニシン漁の時期になると、出稼ぎに来ていた漁師たちが生活した建物です。建築された年は明確ではありませんが、建物の構造などから、江戸時代の末か、明治の初め頃と考えられます。



寝台



仏間

中央に土間があり、玄関を入れて右側が主人・支配人の居室、左側が出稼ぎに来た漁師の生活の場所となっています。居室に入っすぐの仏間には造り付けの仏壇と神棚もあります。